

全校集会(『いじめについて考える日』及び『いのちについて考える日』)

- ・ 生徒会役員の皆さん、動画やパワーポイント資料の作成など、ありがとうございました。また、動画に出演している皆さんの演技がとても上手で感心しました。
- ・ 生徒の皆さんには、『いじめ』は、人の心を傷つけ、場合によっては『いのち』さえ奪ってしまう可能性があることを、知っておいてもらいたい。
- ・ まず動画では、シーン1は「プレッシャーをかける」、そして、シーン2は「しつこく聞く」という内容の動画でありました。
- ・ 昨年度は「いじり」や「からかい」という内容でしたが、今回は「プレッシャーをかける」や「しつこく聞く」なども、学校のような集団生活では起こりがちなことだと感じています。
- ・ シーン1では、学級代表になって自分の責任を果たそうと一生懸命に頑張っているのに周りは言うことを聞いてくれない、自分が失敗したら責められる、そういう学級の雰囲気がとてもしんどい・つらいと感じているという場面でした。
- ・ 例えば、今の学級や部活動を振り返ってみて、責任感を持って一生懸命に声をかけてくれているのに、言うことをきかなかったり、逆に反抗的な態度をとったりしているようなことはありませんか。
- ・ シーン2については、「おまえら仲ええな!」「付合ってるの?」と、何回もしつこく言われることで嫌な気分になってきているという場面です。最初は、さらっと受け流せたことが、何回もしつこく複数の人から言われることに苛立っているシーンでした。
- ・ 最初は、そんなに悪い気はしなかったかもしれませんが、何度も何度も複数の人から言われることで、「からかわれている」というようで、嫌な気持ちのようになってきているように思います。
- ・ 生徒会の皆さんの説明にもあったように、ある行為(「プレッシャーをかける」・「しつこく聞く」)に対して相手が嫌だと感じたらこのことは『いじめ』になりますが、相手が苦痛に感じていることが分からなければ、この行為は繰り返されることになります。
- ・ このいじめ行為を分析すると、いじめられる人・いじめる人・周りではやし立てる人(観衆)・何もせずに観ているだけの人(傍観者)の四層構造になっていると言われています。
- ・ 一番怖いのは、周りではやし立てる人や、ただただ観ているだけの人も、はじめは「(シーン1で言うと)学級代表として頑張ってくれているのに?」「(シーン2で言うと)なんであんなにしつこく言うのかな?」って思っているけど、「特に変わった様子もないので」ということで、そのことが日常の当たり前の状態になってしまう(麻痺してしまう)ことです。
- ・ いじめられている人の本当の気持ちなんて誰にも分かりません。「嫌だ」と思って我慢しているかもしれない。「だれも助けてくれないんだ!」「だれも自分の気持ちなんて分からないんだ!」と感じているかもしれない。

- そのような状況が続けば(例えばシーン1のように学級代表として一生懸命やっているのにプレッシャーをかけられ、おまけに言うことも聞いてくれないような状態が続けば、また、シーン2のように毎日しくこく聞かれイライラした状態が続けば)、「もう、学校へは行きたくない」、「もう、これ以上、嫌な思いはしたくない」と思ってしまうのではないのでしょうか。
- 今回のシーン1・シーン2以外にも、学校のような集団で生活している以上、「あの子とは、気が合わない」や「あの人は、ちょっと苦手」など、人の好き嫌いがあるのは当たり前のことではあるとは思いますが、そのことが時に『いじめ』につながっていくこともあります。
- そういうことから考えると、『いじめ』は、「いつでも」・「どこの学校にでも」・「誰にでも」起こりうることであり、昭和中学校も例外ではないと思います。
- 例えば、『いじめている人』に、いじめているという意識がないこともあります。そんな時、まわりにいる人が気づいてあげられたら、声をかけてあげられたら、このいじめ行為はひどくならず、解決に向かう可能性があります(いじめられている人の気持ちを楽にしてあげられることも)。
- 少し前の調査ではありますが、いじめを受けた時に約2割(10人中2人)の人は友だちに相談すると回答しています。もし、そのような時があれば、相談を受けた人は、相手の気持ちになって話を聞いてあげてほしいと思います。友だちの支えはとても大きな力になるはずです。
- ただ、いじめを受けた同じく約2割の人は、「誰にも相談しない」とも回答しており、また、小学生から中学生にかけて学年が上がるにつれて、「いじめが起こっていることを分かりながら見て見ぬふりをした」という回答が増えているのも事実です。
- 特に、思春期の時期にある皆さんは、感受性も強く、悩みの多い年頃です。友だちへの相談が無理な時には、家族や先生・スクールカウンセラーなどの大人の力を借りることもひとつです。
- 「いじめられていることをどうしても親や先生に知られたくない」などの理由で相談できない場合は、『いじめに関する相談窓口』があることも知っておいてください。昭和中学校のホームページにもバナーがあり、『相談窓口』へリンクしています(電話相談やメール相談あり)。
- 皆さんの持っている教育情報利用 PC からは、話を聞いてほしい先生を選んで相談できる『相談申告機能』も設定されていますので、あわせて知っておいてください。
- 最後に、昭和中学校の生徒の皆さんが、相手の立場を考え、あたたかい言葉をかけあえることで、いじめのない『優しさ溢れる学校』になることを願っています、そして、生徒の皆さん一人ひとりが、かけがえのない自分自身の『いのち』を大切にしてほしいと強く願っています。
- 『いじめについて考える日』・『いのちについて考える日』のお話は以上です。学年や学級でも今日の取組を通じて、すべての昭和中の生徒が安全で安心して生活できることを願います。

【いじめの定義】

「『いじめ』とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。」